

あみだじ 阿弥陀寺 だより

2015年9月15日 第26号

金剛山 阿弥陀寺

発行人 大谷 義文

〒861-2235 熊本県 上益城郡 益城町 福富 916

TEL (096) 289-0424 FAX (096) 297-9161

E-mail amidaji@s3.kcn-tv.ne.jp

ホームページ [金剛山阿弥陀寺](#) 検索

郵便振替:01710-8-68921 加入者名:阿弥陀寺事務所



鹿児島県 出水市 米ノ津港

布団に入ると、母や祖母が枕元で子守唄を歌つてくれた。それぞれの歌には、それぞれに描いた風景が、いまでも私の中に存在する。

「カラスなぜなくの」で親しまれる「七つの子」

では、七羽のカラスの顔まで決まっていた。また、「ねんねんころり」の最

後に「笙の笛」が出てくる。それはいつたいどんなものなのか、と考え始めるときがて朝になつていた。

ところが驚くことがおきた。小学生の頃、「カラスなぜなくの、カラスの勝手でしょ」という歌がテレビから聞こえてきて流行した。「それはないだろう」と、大声で歌う友人に「歌うな」と怒つた。たくましく背が伸びた稻穂を見ていたら、ふとそんなことを思い出した。

子守唄を聴きながら

大谷 義文

近頃、「ちょっと、相談が」と来寺される方が多くなった。話をお聞きすると、葬儀、納骨等にかかる費用を心配される。

カラスが七羽の子を育てたように、私たちも同じように育てられた。それなのに、親の葬儀ができない、墓がない、と行き詰ってしまう現代。

秋彼岸会、あつという間に時が経つ。

ご法話は、能樂師、浪曲師、人形師、バイオリニストの方々。

それぞれの方が受け継がれた「ことば」、「おと」には、空しく時を過ぎていく私に何かを語りかけてくれる。なぜなら、そんな私のために生まれた文化だからだ。

夕暮れに、カラスがやってくる。お寺の上でカバーとなく。その声は、

「カラスの勝手でしょ」とは決して言つていらない。

佐土原本店

熊本市東区佐土原1-12-1(佐土原バス停前)

電話 096-360-8488

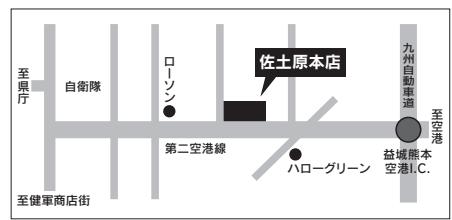
営業時間

昼/11:00~15:30(オーダーストップ15:00)

夜/17:00~21:30(オーダーストップ21:00)

定休日/毎週火曜日(祝日の場合翌日振替)

7・8月、12・1月は不定休





7月盆前、ついに念願の増築工事が始まつた。まず、2階の納骨堂の床面積を広く確保するため、1階の基礎工事。そして、お借りした西側の土地を、整備して駐車できる場所の造成。ふたつの工事が始まつた。

業者は、本堂建設でお世話になつた、佐藤建設事務所さま、吉本建設さまに再度、設計、施工、管理をお願いした。天候次第ではあるが、順調にいけば10月末に完成予定。



仏壇搬入

既存の駐車場では、間に会わない時が多くあつたので、迷惑をかけた。これで出入りも、駐車も楽にできるようになつた。

板と底板を、ワイヤーで引張り、外部を布団で包み、木枠で固定した。細工が至るところに施された、大きな仏だん。天

板の参拝場所に安置する、仏だんをレッカード吊り上げ、引き込んだ。搬入が完了。安堵した。

一駐車でくる場所

秋風匂う、今日この頃。今回は秋の名曲「枯葉」をご紹介。フランスの歌手イブ・モンタン、日本では淡谷のり子がヒットさせたシャンソン、ジャズの名曲。

寺子屋では、安田先生のピアノ、志方仁星君のアルトサックスのDuoによる名演が幾度となく展開されています。

とてもロマンチックな曲です。1945年、フランスの舞台用歌曲でしたがアメリカに持ち込まれ、ビング・クロスビーが大ヒットさせました。歌詞は「窓辺に散り積もる落葉たち、赤と黄金色に染まつた、その枯葉を眺めながら、私は想う。

新たに棟上げをするために、既存の屋根を解体する。その作業は、雨の降らない数日間で行わなければならぬ。なかなか言ふことを聞かない梅雨前線。一番暑い時期の工事となつた。

解体前の数日間、大工さんが屋根裏に入り、段取りをされていました。また風が通らず、暗いゆえに明かりを点けるためさらに高温室。休憩されるたびに「ここは地獄だ」と言われていた。

新たに棟上げをするために、既存の屋根を解体する。その作業は、雨の降らない数日間で行わなければならぬ。なかなか言ふことを聞かない梅雨前線。一番暑い時期の工事となつた。

3年前、私の携帯電話に登録されている番号の数は、わずか15件だった。それがいまでは、500件を超えた。

先日、久しぶりにお参りに伺つたご門徒さんから「生もんばつてん、おふくろが好きだつたけん、よかったです」とおっしゃる。横には、思い出の写真があります。どうぞお聞き下さいお願いします。

あなたは、○○町に住んでいらして、奥さんは音楽の先生で……」と言つた。青春時代を回想しまず。ジャズに熱狂しました、と言つぶやきたいと思います。どうぞお付合ください。

958年、録音ジャズの代名詞、ジャズ界の帝王M.デイビスが演奏する「枯葉」です。ダークブルーでむせび泣くようなミユートトランペット、それとは対照的で自由奔放に空間を踊りまくる、とても明るい音列のアルトサックス、C・アダレーといった、今では垂涎の出る超豪華セッションです。いや、ジャズつほんとに良いですね！さよなら、さよなら。

納骨堂駐車場整備工事



棟上げ



本堂西側



本堂西側

夕焼け小焼けで日が暮れて山のお寺の鐘がなる

『益参り奮闘記』
作詞 中村雨紅 作曲 草川信

釋博真（橋原真人）

大正12年唱歌。左、戦中替え歌。
夕焼け小焼けで、日が暮れない
山のお寺の鐘ならぬ
戦争なかなが、終わらない
クラスもお家へ、帰れない
反戦、厭戦の声を聞かねば。

真、品々も並ぶ。話は違えども、懐かしんでおられるのが伝わる。「どうぞお寿司、食べていいって」と勧められ、ごちそうになつた。まるで亡くなられた方が、一緒にいて微笑んでいるような、穏やかな時間を過ごした。

あるお宅では、お茶を頂いていると、座つていった息子さんが前のめりになり「足がしびれた」と読経中はうちわで扇いで頂き、終わると冷たいお茶を頂く。一年ぶりにお会いする方も、近況報告を兼ねてお話をするとしかし、時はあわただしく次のお参りへ。

初盆のお宅で、お寿司がご仏前にお供えしてあつた。

お茶を頂く。一年ぶりにお会いする方も、近況報告を兼ねてお話をするとしかし、時はあわただしく次のお参りへ。

あるお宅では、お茶を頂いていると、座つていった息子さんが前のめりになり「足がしびれた」と読経中はうちわで扇いで頂き、終わると冷たいお茶を頂く。一年ぶりにお会いする方も、近況報告を兼ねてお話をするとしかし、時はあわただしく次のお参りへ。

初盆のお宅で、お寿司がご仏前にお供えしてあつた。

お茶を頂く。一年ぶりにお会いする方も、近況報告を兼ねてお話をするとしかし、時はあわただしく次のお参りへ。

あるお宅では、お茶を頂いていると、座つていった息子さんが前のめりになり「足がしびれた」と読経中はうちわで扇いで頂き、終わると冷たいお茶を頂く。一年ぶりにお会いする方も、近況報告を兼ねてお話をするとしかし、時はあわただしく次のお参りへ。

あるお宅では、お茶を頂

阿弥陀寺だより

秋 彼岸会 法要

日時・9月20日(日) 午後1時30分から読経

2時から法話 (本堂にて懇親会)

法話・安田 登 師 (能楽師 いじも能チャレンジ講師)

玉川 奈々福 師 (浪曲師 東京都)

飯田 美千香 師 (人形師 長野県)

山本 紗由 師 (バイオリニスト 京都府)

※懇親会参加費・1000円

寺子屋「語りの秋」

日時・11月3日(火) 午後2時から5時 (本堂にて懇親会)

講師・安田 登 師 (能楽師 東京都)

玉川 奈々福 師 (浪曲師 東京都)

沢村 豊子 師 (曲師 東京都)

—演目は当田のお楽しみ— ※懇親会参加費・1000円

寺子屋「歳暮の会」

日時・12月23日(水) 午後2時から5時 (本堂にて懇親会)

講師・安田 登 師 (能楽師 東京都)

香西 克章 師 (指揮者 東京都)

※懇親会参加費・1000円

○もちつき
12月30日(水)
歳の瀬、恒例もちつき。
10時からです。

参加の方は、ご連絡お
願いします。お土産に鏡
もち(小)ですが、お持
ち帰りください。



柳家松太郎 師匠

○納骨堂案内
ご予約いただいている
方から、順番にご案内い
たします。ハガキ、電話
で連絡差し上げます。

○もちつき
12月30日(水)
歳の瀬、恒例もちつき。
10時からです。

参加の方は、ご連絡お
願いします。お土産に鏡
もち(小)ですが、お持
ち帰りください。

猫伏石の声

○御正忌報恩講
1月11日(月)
法話 大谷義文

語りと切り絵

柳家松太郎 師匠



香西 克章 師

「文化秋冬」



安田 登 師



山本 紗由 師



玉川奈々福 沢村豊子 両師匠



飯田 美千香 師

葬儀・祭壇 熊本県儀式共済グループ

ハタオ葬儀社 水前寺斎場

熊本市中央区国府1丁目12-3
TEL.096-364-3220(代)

豊住葬祭 豊住斎場

熊本市中央区河原町23
TEL.096-324-4848(代)